

議会日誌

5~8月

主なものを載せています

- 5月12日 { 広報常任委員会
- 5月26日 { 全員協議会
- 6月2日 議会運営委員会
- 6月14日~16日 6月定例議会
- 6月29日 { 議会運営委員会
- { 全員協議会
- { 臨時議会
- { 地方創生調査特別委員会
- { 各常任委員会
- 7月7日 広報常任委員会
- 7月15日 { 議会運営委員会
- { 全員協議会
- { 臨時議会
- { 広報常任委員会
- 7月21日 { 総務産業、文教厚生常任委員会
- { 全員協議会
- { 広報常任委員会
- 7月28日 広報常任委員会
- 8月8日~10日 議会視察研修(石川県珠洲市)

Topic! 誇りに思う、町職員!!



未曾有の大災害となりました熊本大地震。発災後、各地で支援の輪が広がっています。当南関町でも、職員さん方により、5月23日から7月8日まで二名交代で、のべ88名が益城町での支援を行いました。支援業務は罹災証明発行や窓口での対応などの協力だったそうです。大きな被災を被られた地での仕事は、大変だったろうと思います。

また、町職員組合ではボランティア活動として、発災直後から6月いっぱいまで、平均8名体制により土・日の休日を利用して、大津町、西原村、熊本市へ支援されました。

がれきの撤去から罹災証明発行と多岐にわたり支援されました。町議会の一員として、南関町職員さん方を誇らしく思いました。(本田真二)



ティーブレイク

編集後記

6月22日の集中豪雨では、町内で700件弱の被害報告がありました。私が居住する東豊永区でも50件以上の届けがあり、後日、町建設課職員と被害調査に同行しました。

町道、河川については災害復旧ができることでしたが、田畑が問題で、耕作していても小規模被害では国認定基準を満たさず、自己資金によらなければなりません。さらに耕作していない所は災害の大小にかかわらず、認定基準を満たさない所もあり自己負担になります。

「後継者がいない」「もう耕作しない」「復旧費をかけても、費用対効果が出ない」など、自己負担なら復旧しないという農家が多く、ますます農地が荒廃するのではないかと感じました。

本年の4月から、町独自に「農地の小災害復旧工事費補助」が条例化されましたが、農業振興地域内であることや工事費の二分の一で上限5万円など、制約があり、補助率も低く、まじめに農業に取り組んでいる方々への支援策としては十分とは思えません。今後、荒廃地を減らしていくためにも、さらに町対策の向上を決意したところです。(立山比呂志)

編集(広報常任委員会)

- 委員長 本田 真二
- 副委員長 立山 秀喜
- 委員 杉村 博明
- 委員 立山 比呂志
- 発行責任者 酒見 喬